



# Red Hat Satellite 5.8 リリースノート

---

Red Hat Satellite 5.8 向け製品情報、新機能、および既知のバグ

Red Hat Satellite Documentation Team



# Red Hat Satellite 5.8 リリースノート

---

## Red Hat Satellite 5.8 向け製品情報、新機能、および既知のバグ

Red Hat Satellite Documentation Team  
satellite-doc-list@redhat.com

## 法律上の通知

Copyright © 2017 Red Hat.

This document is licensed by Red Hat under the [Creative Commons Attribution-ShareAlike 3.0 Unported License](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/). If you distribute this document, or a modified version of it, you must provide attribution to Red Hat, Inc. and provide a link to the original. If the document is modified, all Red Hat trademarks must be removed.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux ® is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java ® is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS ® is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL ® is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js ® is an official trademark of Joyent. Red Hat Software Collections is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack ® Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

## 概要

本書では Red Hat Satellite 5.8 向け製品情報、新機能、および既知のバグについて説明します。

# 目次

- 1. はじめに ..... 2
  - 1.1. 本リリースについて ..... 2
  - 1.2. サポート対象オペレーティングシステム ..... 2
  - 1.3. サポートされるアーキテクチャー ..... 2
  - 1.4. サポートされるクライアント ..... 2
- 2. 必要なエンタイトルメントとリポジトリ ..... 2
- 3. 新機能および改良された機能 ..... 3
  - 3.1. コンテンツ配信ネットワークサポート ..... 3
  - 3.2. 証明書の生成 ..... 3
  - 3.3. TaskoTop ..... 3
  - 3.4. 更新されたバックエンドテクノロジー ..... 4
  - 3.5. 完全にローカライズされた Web ユーザーインターフェース ..... 4
  - 3.6. 新しい API メソッド ..... 4
  - 3.7. 新しいコマンドライン機能 ..... 4
- 4. 非推奨の機能 ..... 5

## 1. はじめに

Red Hat Satellite 5 はライフサイクル管理ツールで、大量のシステムをデプロイ、管理、監視する機能があります。Satellite 5 は接続、分離いずれかのモードで設定可能で、後者の場合は、オリジナルのプール型サブスクリプションアプローチを使用して Red Hat ソフトウェアがクライアントシステムに配布されます。プール型サブスクリプションの概念は、クライアントが Red Hat Network Classic からエンタイトルメントを使用する方法と同様のものです。

### 1.1. 本リリースについて

Red Hat Satellite 5 のこのリリースは Spacewalk 2.4 リリースに基づき、Spacewalk 2.6 リリースまでのすべての利点を含みます。Spacewalk 2.6 リリースの最新情報については、Spacewalk Wiki を参照してください。

本書では、Red Hat Satellite に固有な変更点のみを紹介します。Spacewalk 2.6 リリース自体のリリースノートは以下の場所にあります。

<https://fedorahosted.org/spacewalk/wiki/ReleaseNotes26>

### 1.2. サポート対象オペレーティングシステム

Red Hat Satellite 5 のこのリリースは以下のオペレーティングシステム上にインストールできます。

- Red Hat Enterprise Linux 6

### 1.3. サポートされるアーキテクチャー

Red Hat Satellite 5 のこのリリースは以下のアーキテクチャーにインストールできます。

- x86\_64
- s390x

### 1.4. サポートされるクライアント

Red Hat Satellite 5 のこのリリースは以下のクライアントオペレーティングシステムを管理できます。

- Red Hat Enterprise Linux 5
- Red Hat Enterprise Linux 6
- Red Hat Enterprise Linux 7

## 2. 必要なエンタイトルメントとリポジトリ

CDN を使用して Red Hat Satellite 5.8 環境をインストールおよび設定するには、以下のリポジトリで提供されるパッケージが必要です。パッケージをインストールするためにこれらのリポジトリの 1 つが必要の場合、そのリポジトリを有効にするために必要な手順は、『インストールガイド』の適切な場所に記載されています。

表1 Red Hat Satellite Server

サブスクリプション プール	リポジトリ名	リポジトリラベル	詳細
Red Hat Enterprise Linux Server	Red Hat Enterprise Linux Server	rhel-6-server-rpms	Red Hat Enterprise Linux 6 Server を提供します。
Red Hat Satellite	Red Hat Satellite 5.8 (RHEL 6 Server 向け) (RPM)	rhel-6-server-satellite-5.8-rpms	Red Hat Satellite 5.8 をインストールおよび設定するために必要なパッケージを提供します。
Red Hat Satellite	Red Hat Satellite Proxy 5.8 (RHEL 6 Server 向け) (RPM)	rhel-6-server-satellite-proxy-5.8-rpms	Red Hat Satellite Proxy Server 5.8 をインストールおよび設定するために必要なパッケージを提供します。
Red Hat Satellite	Red Hat Satellite Managed DB 5.8 (RHEL 6 Server 向け) (RPM)	rhel-6-server-satellite-manageddb-5.8-rpms	Red Hat Satellite 5.8 向け管理対象データベースをインストールおよび設定するために必要なパッケージを提供します。

### 3. 新機能および改良された機能

本項では、Red Hat Satellite 5 のこのリリースの主要な新機能について簡単に説明します。

#### 3.1. コンテンツ配信ネットワークサポート

以前は、Red Hat Satellite 5 はコンテンツの一般的な管理と同期のために Red Hat Network (RHN) に接続されていました。このリリースでは、Red Hat Satellite 5 は Red Hat Network (RHN は 2017 年に終了予定) を引き継ぐ Red Hat カスタマーポータルおよびコンテンツ配信ネットワーク (CDN) と通信するようになりました。また、Red Hat Satellite 5 は CDN からのコンテンツのみを同期し、RHN からのコンテンツは同期されません。



#### 注記

このリリースでは、2 つ以上の Satellite Server をお互いに同期する場合に、2 つの同期メカニズム (Red Hat との同期には **cdn-sync**、ダンプからの他の Satellite Server との同期には **satellite-sync**) が使用されます。

#### 3.2. 証明書の生成

このリリースでは、Red Hat Satellite マニフェストを生成し、Satellite Server をアクティベートする新しいプロセスが導入されました。また、**rhn-satellite-activate** スクリプトでカスタマーポータルからマニフェストを更新およびダウンロードできるようツールが変更されました。これらの拡張機能は RHN からの移行の一部として含まれます。

#### 3.3. TaskoTop

このリリースでは、新しいコマンドラインツール **taskotop** を使用して "behind the scenes" タスク管理デーモン Taskomatic の状態を監視できるようになりました。名前が示すように、このツールのユーティリティーは Linux ユーティリティー **top** に似ており、Taskomatic デーモンの状態を確認できます。

### 3.4. 更新されたバックエンドテクノロジー

このリリースには、以下のサポートインターフェースと基礎となるテクノロジーの更新が含まれます。

- ※ デフォルトのデータベース: Software Collections の PostgreSQL 9.5 DB (組み込み、管理対象)
- ※ 外部 DBA 管理 Oracle サポート: Oracle 12c (10g および 11g 向けの継続サポートインターフェース)
- ※ Java で書き換えられた残りの mod\_perl スタック
- ※ IBM Java 1.8.0 ランタイム環境

### 3.5. 完全にローカライズされた Web ユーザーインターフェース

このリリースでは、残りのすべての PXT ページが Java で書き換えられました。この拡張により以下の主要な利点が提供されます。

- ※ **mod\_perl** スタック全体が削除されました。
- ※ Web ユーザーインターフェース全体を完全にローカライズできるようになりました。

### 3.6. 新しい API メソッド

このリリースでは以下の API メソッドが追加されます。

- ※ actionchain.addErrataUpdate
- ※ kickstart.listKickstartableTreeChannels
- ※ org.isErrataEmailNotifsForOrg
- ※ org.setErrataEmailNotifsForOrg
- ※ org.isOrgConfigManagedByOrgAdmin
- ※ org.setOrgConfigManagedByOrgAdmin
- ※ packages.listSourcePackages
- ※ packages.removeSourcePackage
- ※ system.getOsaPing
- ※ system.listSuggestedReboot
- ※ system.schedulePackageInstallByNevra
- ※ system.schedulePackageRemoveByNevra
- ※ system.sendOsaPing

### 3.7. 新しいコマンドライン機能

このリリースでは、以下のコマンドが **spacecmd** コマンドラインインターフェースに追加されます。

- ※ kickstart\_setsoftwaredetails
- ※ repo\_updatessl
- ※ softwarechannel\_errata\_diff



- ✳ softwarechannel\_errata\_sync
- ✳ softwarechannel\_getorgaccesstree
- ✳ softwarechannel\_listsyncschedule
- ✳ softwarechannel\_removesyncschedule

## 4. 非推奨の機能

以下の機能は非推奨であり、このリリースには含まれません。

- ✳ EOL チャンネルへのアクセス
- ✳ サーバーイベント監視
- ✳ Solaris 管理
- ✳ Subscription Asset Manager